

パートナーシップ構築シンポジウム

# パートナーシップで実現する サプライチェーン全体の脱炭素推進

2026年6月12日

NECネットエスアイ株式会社

調達本部長

足立 卓司

# NECネットワークスアイの紹介

## NECネットワークスアイ株式会社

NEC Networks & System Integration Corporation

(略称: **NESIC**)

設立 : 1953年12月1日設立  
資本金 : 131億22百万円  
売上高 : 3,901億円(連結)  
従業員数 : 7,601名(連結)  
国内拠点 : 51拠点(サービスセンター:16)

通信建設

1953年(創業)~ 日本電気工事株式会社

1960年代~ 海外インフラ構築

1980年~ 日本電気システム建設株式会社

1990年代~ システムインテグレーター

2005年~ NECネットワークスアイ株式会社

2010年代~ ソリューションプロバイダー

2020年代~  
コミュニケーションサービス  
・オーケストレーター



NEC Group Internal Use Only



明日のコミュニケーションをデザインする

# 社会の中での当社の事業領域

**1 働き方改革**  
さまざまなクラウドサービスを組み合わせ、先端技術を活用することで、コミュニケーションやマネジメント、管理業務の課題を解決。自宅やサテライトオフィスなど場所を問わずにリアルとバーチャルが融合して働ける環境や、組織や企業の壁を越えて一つのチームとして共創できる場、イノベーションを生む働き方を実現

**2 放送**  
テレビ送信設備や中継局、スタジオ設備などの構築、運用・保守に加え、4K/8K放送を配信するための光ケーブルを敷設

**3 空港**  
飛行機を駐機位置に誘導するシステムや管制システム、セキュリティシステム、空港内の情報提供サービスなどを幅広く提供

**4 ホテル**  
ホテル内の音声通信をはじめ、客室マネジメントシステムや宿泊客への情報提供サービスなどのホテルータルソリューションを提供

**10 海洋**  
国際コミュニケーションを支える海底ケーブルの敷設や、地震情報を早期に取得する海底地震計の構築。また、海底ケーブル敷設ノウハウを活かして洋上風力発電の電力線を設置

**11 宇宙**  
地上局の設置から、人工衛星/探査機との通信、運用管制まで、宇宙開発やそれを通じた環境観測を幅広くサポート

**12 自治体・文教**  
安全安心な生活を支える住民見守りサービスやエネルギー管理システムなどを実現する自治体ネットワークを提供。加えて、自治体職員が働きやすい環境や、学校のICT化・オンライン授業を実現

**13 一次産業**  
デジタル技術の活用により農業、林業、水産業など一次産業のビジネスモデル変革を推進。例えば、最新のICT技術で養殖業をDX化し、安全安心で高品質なサーモンの生産に取り組み

**5 移動体通信網**  
スマートフォンなどの基地局の設置から、基幹網のSIまで毎日のコミュニケーションを支えるネットワーク全体をサポート

**6 消防・救急**  
119番通報に対し、迅速な対応を可能にする指令台システムや無線システムを構築。さらに多言語コールセンターを活用し119番通報をサポート

**7 鉄道・道路**  
鉄道や高速道路に付帯する通信ネットワークを整備、構築。交通管制のためのネットワーク、交通監視、情報通信などのシステムを担い、公共交通をサポート

**8 防災**  
災害情報を一斉配信する防災行政無線システムの構築や、さまざまなインフラ情報の一元化による意思決定支援により、安全安心な暮らしをサポート

**9 店舗・公共施設**  
Wi-Fiやローカル5Gの環境構築から情報配信サービス、付加価値の高い映像サービスの提供まで、来場者にとって便利な環境を実現

**14 工場**  
工場などの製造現場にDXを活用し、モノやヒトの最適化を行うなど、生産効率の向上を図りプロセス改革によるスマートファクトリー化を実現

**15 ネットワークトータルオペレーションセンター**  
セキュリティの監視からネットワークの運用まで、24時間365日お客様のネットワーク環境の安全安心をサポート

**16 総合テクニカルセンター**  
新技術の検証、評価やSI、保守、修理までのテクニカルサービスを24時間365日対応でトータルに提供

**17 データセンター**  
セキュアで堅牢な環境でお客様のICT資産をお預かりするとともに、幅広い運用、アウトソーシング、多様なクラウドサービスを提供

**18 コンタクトセンター**  
ICTシステムの障害受付、ヘルプデスク窓口など、お客様のシステム管理者や利用者への窓口サービスを提供。多言語での通訳サービスにも対応

● : 当社サービス基礎

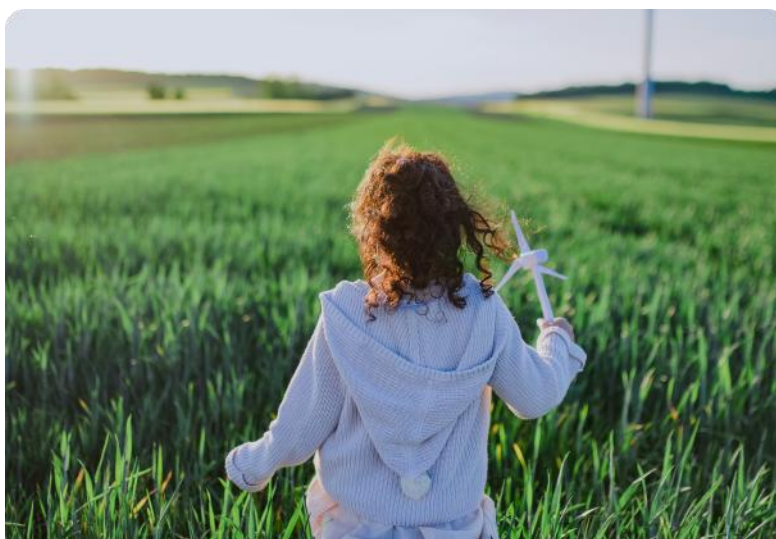
当社の事業は、多くのパートナーとの協働によって成り立っています

# パートナーシップ構築への取り組み



## フェアな取引を共創

利益もコストもサプライチェーン全体で適正にシェアすることで取引を適正化



## サステナブルな事業環境を共創

持続可能な社会の実現に貢献し、サプライチェーン全体での付加価値を向上



## 新たな市場を共創

お互いの事業との共創アイデアを積極的にマッチングすることで新たな価値を創出

**NEC ネットズエスアイは、パートナーとともに、  
フェアで持続可能な事業環境を共創します**

# サプライチェーン全体からGHG排出量“実質ゼロ”へ

NECグループとして、**カーボンニュートラルの実現を2040年に前倒し**をすることを宣言し、GHG排出量削減に向けてエンゲージメントを強化

## ■ GHG 排出量削減目標



## ■ パートナーとの取り組み

### GHG排出量削減の活動推進ステップ

Step1  
削減方針策定

Step2  
排出量の可視化

Step3  
削減目標設定

Step4  
削減対策実行

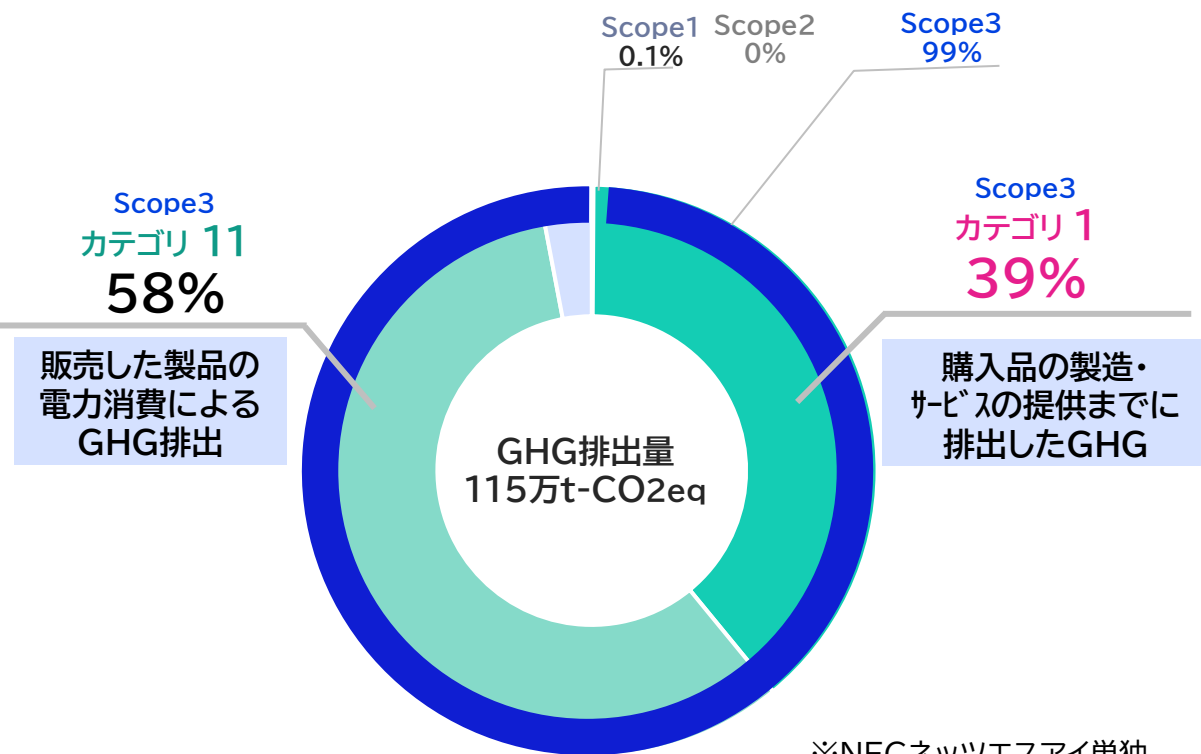
Step5  
削減目標達成

**GOAL**  
サプライチェーン  
全体の温室効果ガス  
排出量実質0達成

# パートナーと始めた脱炭素推進

顧客や社会からの脱炭素要請を受け、自社に加えパートナーを含めた取り組みが必要と判断し、**サプライチェーン全体での排出量把握および削減に向けた取り組み**を開始

## 2024年度のGHG排出量 構成



- ✓当社のGHG排出量の**約99%がScope 3**
- ✓Scope 3の削減に向けては、自社単独ではなく、**サプライチェーン全体での取り組みが不可欠**

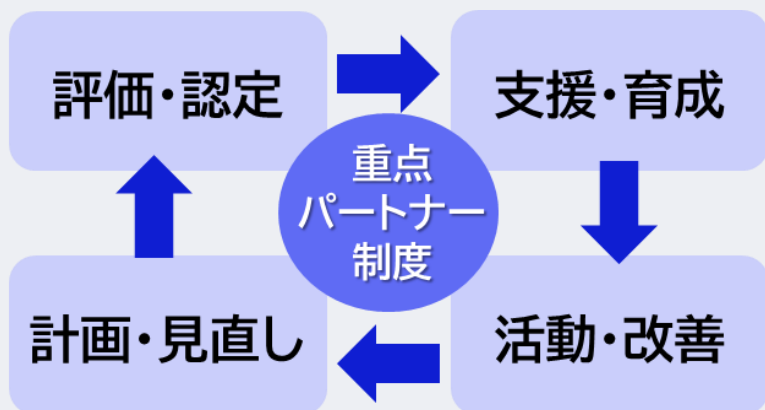
パートナーとの協働による取り組みを開始

# 当社の品質を担保する重点パートナーとの共創

- お客様の要求品質に応えるため、**2010年より重点パートナー制度を導入**
- **発注金額の約5割を占める重点パートナー**との関係強化を通じて成長戦略を推進

事業戦略の共有等を通じて、  
生産能力の向上と市場競争力の強化を図る

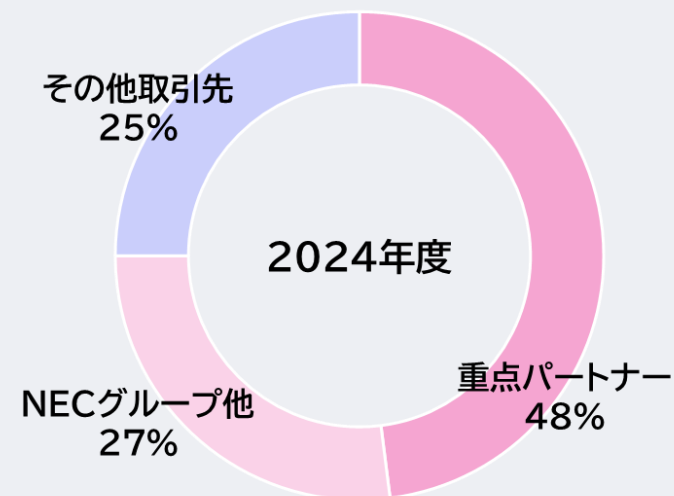
## 重点パートナー制度のサイクル



活動サイクルを継続的に回し、重点パートナーとの関係強化と取り組みの高度化を推進

重点パートナーは発注金額の約半分を  
占める重要なパートナー

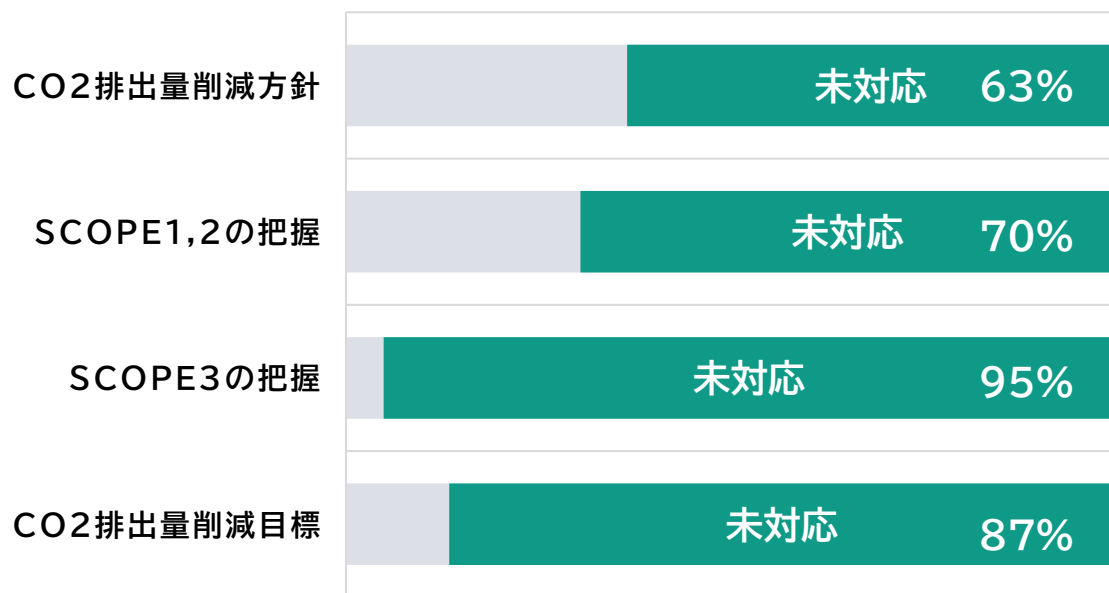
## 外注費の発注比率



# 活動を継続する中で見えてきた阻害要因

- 削減方針の策定やScope1～3の把握など、活動ができていないパートナーが多く存在
- アンケート結果では、パートナーにおける推進基盤の整備が大きな課題であることが判明

## パートナーの対応状況



脱炭素対応の遅れ

## アンケート結果



何から始めればいいのか  
分からない

脱炭素を推進する人材  
がない



業務が忙しく取り組む  
時間を確保しにくい

脱炭素対応を進めるための  
知識/ノウハウや推進人材の不足

# 事例① GHG算定ワークショップ／個別相談会

GHG簡易算定ツールや各種資料を提供したうえで、それだけでは対応が難しいパートナー向けに、理解を深め実際の対応につなげるためのGHG算定ワークショップ／個別相談会を実施。

## ■ GHG算定ワークショップ

- 「GHG排出量の可視化」に関する進め方や、簡易ツールを用いた具体的な算定方法をレクチャー
  - ✓ Scope1～3の考え方や算定の進め方を共有
  - ✓ 意見交換や質疑応答を通じて課題を可視化
  - ✓ 各社が自社での取り組みを具体化するきっかけに



各社の事業特性や保有データの状況に応じて、対象範囲の考え方や手順などを丁寧に支援

## ■ オンライン個別相談会

- ワークショップ(対面)の参加が難しい**地方拠点の重点パートナー**を中心に、オンライン個別相談会を開催
  - ✓ 各社の状況に応じた個別相談を実施
  - ✓ 算定範囲、必要データ、算定手順を丁寧に整理
  - ✓ 実務上の疑問や不安を解消



**経営層の方々も積極的に関与**

対話とノウハウ共有により、各社の実情に応じた伴走を進め、相互理解を醸成

## 事例② ベストプラクティス共有／ディスカッション

ベストプラクティスの共有とディスカッションを通じて、各社が取り組みの進め方や工夫を相互に学ぶ場を提供。自社でも実践できるイメージを持ってもらうことで、理解促進と行動喚起を促す。

### ■ ベストプラクティス共有

- 脱炭素活動を先行して取り組んでいるパートナーの具体的な取り組みをベストプラクティスとして紹介
  - ✓ 取り組みの背景と進め方
  - ✓ 直面した課題や工夫した点 など
  - **自社での取組検討の具体化を後押し**

ベストプラクティス紹介



一問一答インタビュー



### ■ ディスカッション

- ベストプラクティスの共有を受けて、各社が自社の現状や課題、今後の取り組み方針について意見交換を実施
  - ✓ 自社の取り組み状況を共有
  - ✓ 課題や悩みについて意見交換
  - **次のアクションにつながる示唆を獲得**



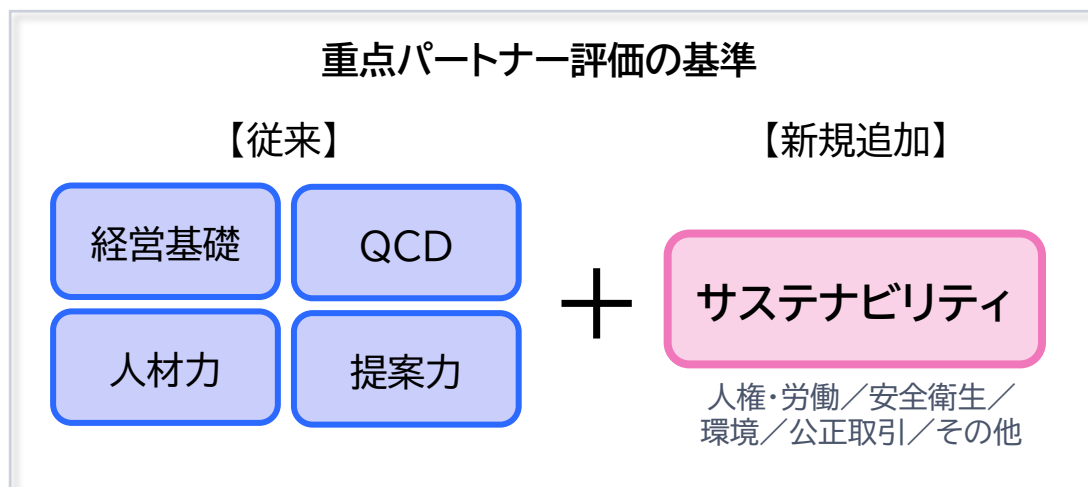
相互に学び合う場の提供による、取り組みの具体化と行動への後押し

## 事例③ 評価／表彰制度との連動

重点パートナー評価にサステナビリティの観点を反映し、あわせて表彰制度を設けることで、取り組みを後押し。努力が評価される仕組みを整えることで、活動の定着と継続的な改善を促進。

### ■ 重点パートナー評価制度への反映

- 脱炭素を含むサステナビリティの活動評価を重点パートナー評価制度に追加



### ■ サステナビリティ表彰制度の確立

- 優れた取り組みを行う重点パートナーに「サステナビリティ・アワード」を授与(年1回)



努力が反映される環境を整えることで、取り組みの定着と継続的な改善を促進

# まとめ 支援と制度化の両輪で推進

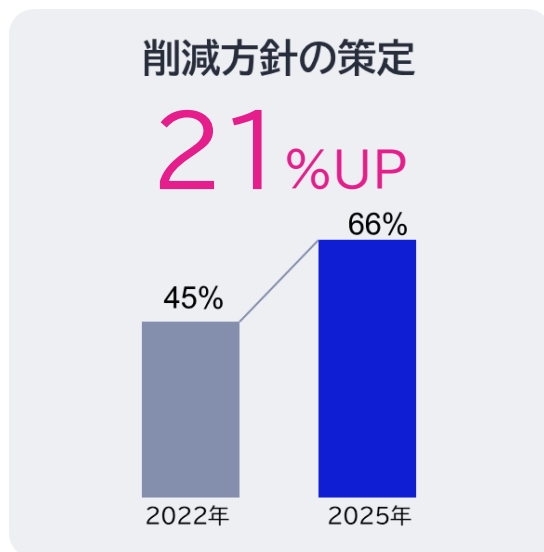
パートナーの脱炭素対応には、理解促進や実務支援に加え、継続的に推進する仕組みづくりが重要。当社は、伴走支援と重点パートナー制度の運用を両輪として、サプライチェーン全体での取組を推進。



# 取り組みの成果

脱炭素活動に未着手のパートナーが多い状況からスタートしたものの、知識提供や伴走支援を通じて、自社GHG排出量の把握・算出が可能となるなど、着実に活動が進展。

## ■ 重点パートナーの進捗



## ■ 重点パートナーからの声



ワークショップを通じて、算定対象や進め方が明確になり、Scope1・2に加えてScope3の可視化まで具体的に進めることができました。

評価項目や表彰制度が明確になったことで、社内でも進めやすくなり、継続的に取り組む意欲につながりました。



# 今後の活動方針



支援  
強化

自律的な取り組みを支える支援強化

継続的に進められるよう、情報提供や個別支援を充実

連携  
深化

対話を軸とした連携の深化

課題や成功事例を共有しながら連携を深化

対象  
拡大

サステナブル調達の裾野拡大

取り組みの対象をより広いパートナーへ拡大

領域  
拡張

環境・社会課題を包含する調達へ

人権、公正取引、安全衛生など多面的な課題に対応

NECネットワークスアイは、今後もパートナーとのコミュニケーションを大切にし、  
永く共に信頼、発展できる関係づくりに努力します。

# NEC

\Orchestrating a brighter world

NEC ネットエスアイ